

避難生活の**公助**・**共助**・**自助**で有効な

どこでも発電[®]

と

どこでも蓄電[®]

防災対策・災害対策を考える上で、「公助・共助・自助」という、災害時等にそれぞれの役割を明確にし、お互いに補完し合う概念があります。中央防災会議の最終報告では、自助の期間が3日間から7日間に延長されました。企業におけるBCP対策や、マンションにおけるMLCP対策の整備も緊急の課題です。この概念を基に、オーエスは防災/減災に役立つ「電気」を確保するためのバッテリー&ソーラーを、組織単位・使用場所・用途によりご提案いたします。

公助用製品

▶P.11~14



市・区をはじめ警察・消防・
ライフラインを支える
各機関による
応急・復旧対策活動。

学校・自治体・消防・自衛隊等



共助用製品

▶P.15~16



自助が集まってできる地域や
組織、近隣が互いに助け合って
地域や組織を守るために
備えること。

自治会・マンション管理組合・企業等



自助用製品

▶P.17~18



もっとも小さな組織である、
家族や小規模の事務所などで、
自分の命を自身で守るために
備えること。

一般家庭・事務所等

